

大賞

中学生部門

広島県広島市

広島市立庚午中学校3年

辻本 美咲

祖母の姿

今から六十九年前、広島に原子爆弾が落とされました。今年で八十歳になる私の祖母は直接の被爆は免れましたが広島市の混乱、復興を経験しました。現在、祖母は短歌を詠んでいます。その中に心に残る歌があります。

「耳あてて木の声聞かん広島の

焼土に年輪重ね来し」

以前、私と平和公園へ行ったときに、そつと木に耳をあて戦後の記憶をたぐった祖母の言葉です。木の音を聴き、木の生命力を感じながら、よみがえった草木や街並みを目にする祖母の姿を私は今でも鮮明に覚えています。その光景は祖父母から父母へ、そして私へとつながってきた「絆」と戦後にもたらされたかけがえのない「平和」がここにあると気付かされました。また、長い年月をかけ大きく成長した木々の堂々とした姿は、祖母の歴史を象徴していると思います。今も尚、目立たない場所で原爆の恐ろしさを証言し続けている祖母や木々の言葉には、目を向けなくてはいけないと思います。私にとって戦争は昔の出来事のような気がします。また、原爆について考えると心が重く切ない気持ちになります。しかし、原爆について感じ学ぶことで、平和の尊さを知ることができます。今を生きる人として平和への夢と希望が溢れる未来を作るために行動しなければなりません。私の祖母も平和への強い思いから、復興に向けて歩き続けています。これからは皆で協力し、平和の大切さを理解し合っていけます。そして、未来の平和に貢献していくことが私の使命だと思っています。私は忘れないでしょう。木にそつと耳をあてた祖母の姿を、穏やかで平和であることの幸せを感じていたあの表情を、言葉を通じて次の世代に伝える大切さを。祖母の姿を見て私が受けた多くのことに、これからも感謝していきたいです。